

木曾三川流域お魚コラム vol.4

「おいしい指標種ウナギ料理あれこれ」

応援団ロゴマークが変わったことに気付かれましたか？ニホンウナギが新しく取り組みの指標種に加わったこと（中面記事参照）を受け、ロゴマークにもウナギのシルエットを追加しました（まんなかあたりです。よ〜く見てみてください。）

食べておいしい指標種ですが、なんといっても有名なのは蒲焼き（背開きで蒸す関東風・腹開きで蒸さない関西風）、蒲焼きとごはんのハーモニーがたまらないうな丼・うな重・ひつまぶしですね。そのほか、日本各地にはさまざまなウナギ料理があります。生態系ネットワーク形成の取り組み推進により、おいしい指標種ニホンウナギやその生息環境が守られていきますように！



「せいろう蒸し」
福岡名物。タレ味付きのご飯のうえに、ウナギの蒲焼きと卵が乗せて、蒸してある。おいしい。



「うな肝 肝重」
宮崎などでみられる。ご飯のうえに、ウナギの蒲焼きと肝焼きがハーフ&ハーフ。おいしい。



「お刺身」
ウナギの血には毒があり生食しないのがふつうですが、綺麗に血抜きした刺身が食べられるお店も。。。



「きんし丼」
京都や滋賀でみられる。巨大なだし巻き卵がうな丼のうえにとんぷ。おいしい。



「くりから焼き」
串に巻きつけて焼いたもの。捌く際に出る端切れや小さなウナギが使われるとが。おいしい。



「半助豆腐」
これも関西地方のお料理。蒲焼きの頭の部分（半助）を豆腐と一緒に鍋で煮込む。おいしい。

■2019年11月9日（土）〔長良川うかいミュージアム～長良川国際会議場〕
木曾三川流域エコネット応援団が一堂に集まる交流会
「エコネットカフェ 2019」を今年も開催しました

応援団の皆さんの情報共有・意見交換、さらには、これからの活動に向けて元気を分け合ってもらおうと企画している交流会「エコネットカフェ」を今年も開催しました。流域各所から、年齢・専門分野もさまざまな関係者の皆さんが、約50名集まってくださいました。

はじめに学習会として、長良川うかいミュージアムを訪れ、木曾三川を代表する伝統文化「長良川鵜飼」についてガイドさんから解説いただきました。さまざま質問も飛び交い、「鵜飼の鵜はウミウ」「鵜はおよそ30年ほど現役に働く」「鵜は茨城県で採捕したもの」また「人手が直接触れないためアユの痛みが少ない（味がいいとか）」などなど、知ることができました。



▲長良川鵜飼の学習で、人と川とのつながりやその伝統を感じることができました

交流会では、応援団の皆さんからの取り組み発表として、世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ（アクア・トトと木曾三川と地域連携について）、木曾川高等学校総合実務部（イタセンバラ保護に関する啓発活動について）、岐阜高等学校自然科学部生物班（環境DNAを用いた調査：長良川・揖斐川のアユ・冷水病菌動態について）、大垣東高等学校理科数科ハリヨ班（清水池周辺におけるハリヨ調査や生息場保全について）より、それぞれ日ごろの活動やその成果をご紹介いただきました。アクアトト・ぎふの池谷館長のおはなしは楽しく、水族館展示のほかにも、希少な水生生物の緊急保護、絶滅危惧種の累代飼育、地域の子どもたちとの野外活動などなど、さまざまなことをされていると伺い、参加者の皆さんからも感嘆の声があがっていました。

今年も好評だったグループディスカッションでは、「私の新たな発見を聞いて！」「悩める私にアドバイスを！」の2つをテーマについて、5つのテーブルに分かれて話し合いました。アンケートでは「ディスカッションの時間が短い・もっと長く」という回答をたくさんいただいて、事務局担当はとても申し訳ない気持ちですが、お話の続きを楽しむためにも、ぜひ来年の企画へとつながっていきたくと思っています。



▲交流会はどのテーブルからも笑い声が聞かれ楽しい時間でした

facebook ページはこちらからアクセス!
<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



ニュース情報を募集しています！ 木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報をニュースレターにまとめて発信しており、生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、流域のフレッシュな情報を募集しています。下記お問い合わせ先まで情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曾川上流河川事務所）とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人の絆を深めることを目的とし、流域の自治体・河川管理者・有識者によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曾三川流域において、自然環境を保全・再生・創出しつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曾三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曾三川流域生態系ネットワーク」ホームページ（<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>）



■2019年10月25日(金)〔海津市 揖斐川周辺〕

ニホンウナギを指標に生態系ネットワーク形成を目指す 「第2回ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会」が開催されました

木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、これまで、イタセンバラ（氾濫原）、ハリヨ（湧水帯）を指標に取り組み推進を図ってきましたが、今年3月、新たにニホンウナギが指標種（本川～支川の連続性）に加わりました。

10月25日には「第2回ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会（事務局：木曾川下流河川事務所）」が開催され、部会参加者により、今後、ネットワークを展開していくうえで重要となる津屋川等の現地視察と、それを踏まえた意見交換が行われました。

現地視察は、揖斐川本川、高須輪中、中江川、大江川、津屋川を見て回りました。途中、雨のなか、津屋川の中堤でマイクロバスがスタック、参加者一同でバスを押してぬかるみから脱出というハプニング（！）もあったのですが、この協働作業により、部会メンバーの心がひとつになったのではないのでしょうか。



▲ 現地をみて取り組みイメージを共有しました



▲ 意見交換ではこれからの取り組みについて議論



▲ お昼休憩では指標種を味わいました（ひつまぶしです）

お昼の休憩時間には、海津市の観光名所でもある千代保稲荷参道にて、多くの川魚料理屋が立ち並ぶようすを見て、木曾三川の「川魚文化」を身近に感じました。

意見交換（海津市役所内会議室）の時間には、視察箇所周辺にて実施されたニホンウナギ調査結果、また、他河川事例（モニタリングや環境整備等）も紹介され、今後、木曾三川における取り組みに必要なことや課題などについて議論が交わされました。

■2019年10月20日(日)〔刈谷市産業振興センター〕

「西三河生態系ネットワーク形成フォーラム」に参加 周辺エリアとの連携・交流促進を図りました

西三河生態系ネットワーク協議会（事務局：生活協同組合コープあいち）により、「西三河地域の河川生態系を守るために」をテーマとしたフォーラムが開催され、木曾三川流域エコネット応援団も、他地域の事例紹介として、日頃の活動成果などを発表してきました。（岐阜高校自然科学部生物班、大垣東高校理科数科ハリヨ班、木曾川高校総合実務部の皆さんと、応援団事務局が参加。）

フォーラムの基調講演は豊田市矢作川研究所さんで、岩本川における市民参加による川の自然再生のようすを伺いました。西三河地域の取り組み発表では、みよしの自然環境を守る会（境川源流域での生物多様性保全）、岡崎市立河合中学校自然科学部（ゲンジボタルの保護活動）、岡崎市立東海中学校自然科学部（カワバタモロコの保護活動）の皆さんから、それぞれ活発に活動を行っているようすが紹介されました。

いずれの活動事例も歴史があり、内容も勉強になりました。また、お互いの感想を交換する時間では、西三河の皆さんとの交流を楽しむことができました。



約70名と多くの方が参加されました ▶

■2019年11月2日(土)〔羽島市～世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ〕

地域の宝ものイタセンバラゆかりの場所をめぐる 「アクア・トトぎふ館長と行く！イタセンバラツアー」が開催されました

環境教育、環境意識の醸成へとつなげていこうと、羽島市生涯学習課が取り組むイタセンバラ保護の普及・啓発活動のひとつとして、羽島市に生息する希少魚イタセンバラゆかりの場所をめぐるツアーが開催されました（羽島市イタセンバラサポーターの皆さん約20名が参加）。

当日ガイドはアクア・トトぎふの池谷館長で、自ら保護事業に取り組まれているイタセンバラの詳しいおはなしはもちろん、川のこと・自然のこと・淡水魚のこと、さまざまに楽しくお話しいただき、あっというまの半日でした。

木曾川ではイタセンバラの生息環境となるワンドを見学し、近年の環境変化（樹林化の進行、外来種の侵入等）について、実際のワンドのようすをみながら解説してもらいました（オオクチバスやブルーギルが泳いでいるのがみられました）。岐阜県水産研究所では、保護増殖の取り組みの現場（まさに繁殖行動中！）を見せていただきました。ツアーの最後は、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふを訪れ、濃尾平野におけるイタセンバラ保護の取り組みについて、歴史や現状の課題までたっぷりおはなしを伺いました。濃尾平野のイタセンバラは、一時期、絶滅したかとも思われていたようですが、当日、館内水そうでは約700尾が泳ぐ姿が見られ、木曾三川の自然と、それを守る人びとを間近で感じられた体験でした。

岐阜水産研究所 ▶
（ふだんは入れない増殖用施設もみせていただきました）



▲ 世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ
（婚姻色のオスをきめイタセンバラがたくさん泳いでいました）



木曾川ワンドを見学 ▶
（外来魚が確認できました）



■2019年9月16日(月祝)〔木曾川起地区～一宮市尾西歴史民俗資料館〕

イタセンバラ保護にフレッシュなアイデアを！ 「ワークショップ～木曾川イタセンバラを守るには～」が開催されました

地域の学校・行政機関等が中心に木曾川中流部周辺で行われてきたイタセンバラ保護活動の発展・継続を目指して、今後のアイデアを話し合うためのワークショップ（企画：一宮市尾西歴史民俗資料館）が開催されました。

参加したのは、これまでイタセンバラの飼育や保護啓発を行ってきた地元高校生ら（木曾川高校総合実務部、一宮高校生物部）が中心で、今後、イタセンバラを守るために、どんな課題があるかといった議論、何ができるかといったアイデア出しがなされました。

まずは現状把握のための調査が必要だといった意見、そのためには現場のアクセス性を向上しないとといった課題、また、イタセンバラ等のすみやすいワンド形状に関する考察などなど、前向きな意見交換で盛り上がり、今後ますますの取り組み発展が期待されました。



▲ 第2回ワークショップでの魚釣り体験。木曾川の自然を体感しました



▲ 意見交換では理想のワンド環境を描いて議論しました